

OpenAIの「コード レッド」：GPT-5.2を 巡る覇権争いの内幕

Googleの猛追と巨額投資のプレッシャーが、AIの王者を次次なる一手へと駆り立てる

本資料は、GPT-5.2リリースに関する一連の報道を分析し、AI業界の競争力学とOpenAIが直面する戦略的課題を解き明かすものである。



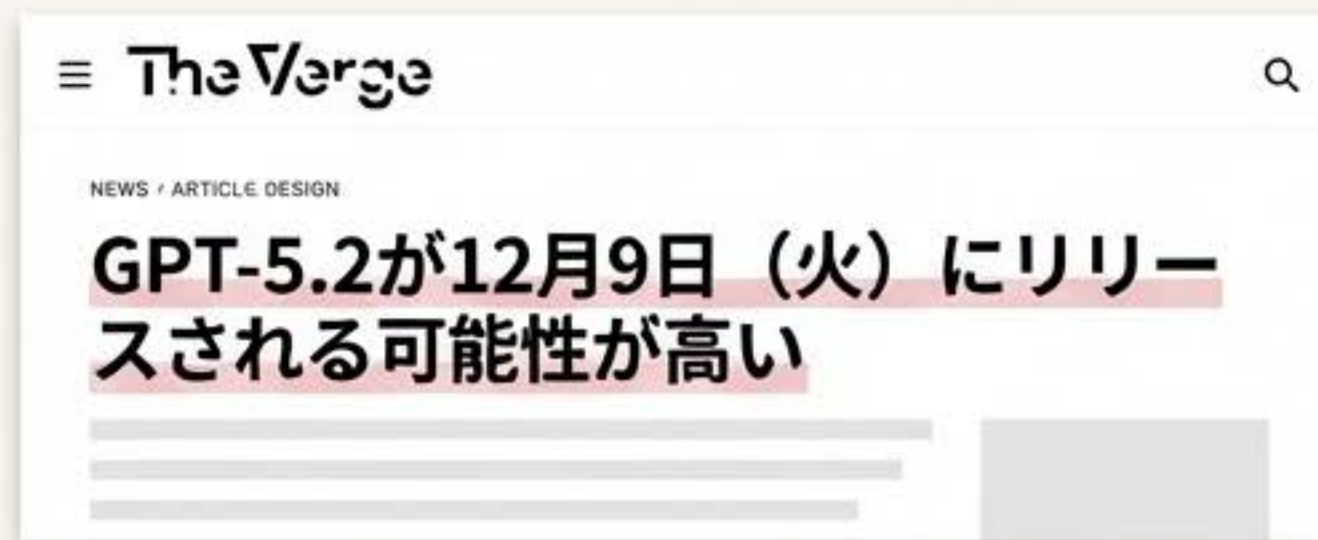
発端：2025年12月9日、GPT-5.2リリースか

情報源：The Vergeの著名記者Tom Warren氏が2025年12月5日に報道。

内容：「OpenAIの計画に詳しい関係者」からの情報者として、**GPT-5.2が12月9日（火）にリリースされる可能性が高い**と報じられる。

背景：当初は12月中旬以降の予定だったが、リリースが「**前倒し**」された。

影響：この報道を皮切りに、Forbes、Wall Street Journal、The Informationなど複数の主要メディアが追随。



*注意書き: 本稿執筆時点において、OpenAIからの公式な発表、肯定、否定は一切ない。

引き金となった「コードレッド」宣言

発令者: OpenAI CEO, Sam Altman

日時: 2025年12月2日

目的: Googleの最新モデル「Gemini 3」の好調な展開への緊急対抗措置。

コードレッド

Altmanの社内メモによる方針転換:

✓ 最優先事項

- ChatGPTの改善（パーソナライゼーション、応答速度、信頼性向上）

⏸ 延期されるプロジェクト

- 広告機能
- AIエージェント（ショッピング・健康）
- ChatGPT Pulseの改善など

信憑性: The InformationとWall Street Journalがこの内部メモの存在を確認済み。

挑戦者の台頭：Gemini 3が驚異的なスピードで市場を席巻

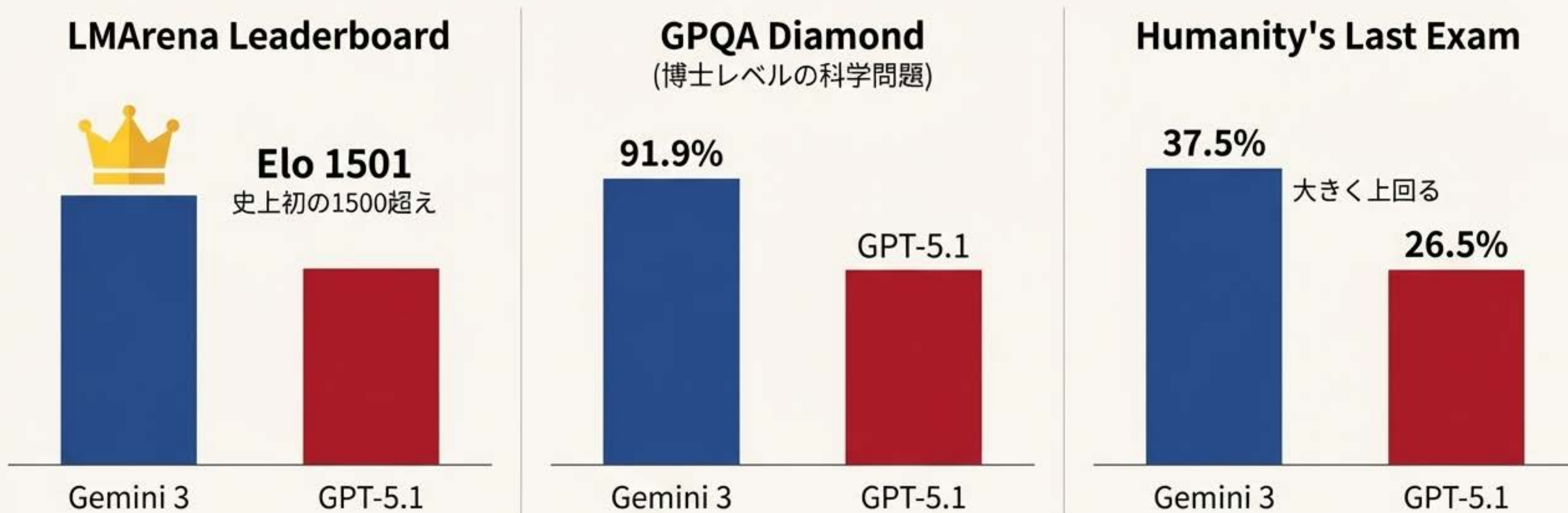
Gemini 月間アクティブユーザー数 (MAU)



“ 3年間使用したChatGPTから
Geminiへの乗り換えを宣言。
— Salesforce CEO, Marc Benioff

影響力のある業界リーダーからの支持を失いつつある兆候。

技術的優位性の逆転：Gemini 3が主要ベンチマークを制覇



結論: Gemini 3は、特に専門性の高い分野でOpenAIの現行モデルを明確に凌駕している。

OpenAIの逆襲：GPT-5.2は「基本性能の底上げ」に注力



1. 応答速度の向上

より高速なレスポンスを実現。



2. 信頼性の強化

ハルシネーション（誤情報）を抑制。



3. カスタマイズ性の改善

ユーザーの個別ニーズへの対応を強化。



4. 推論とコーディング能力

内部ベンチマークでGemini 3を上回るとの報告。

「派手な新機能」よりも「日常的なユーザー体験の向上」を優先。

これはコードレッドの方針と完全に一致する。

異例のリリース速度が示す危機感



分析: この加速は、市場の変化に対応するための計画的な動きではなく、競合への緊急対応であることを示唆している。

水面下の開発：謎のコードネーム「Garlic」

The Informationによる報道:

- OpenAIは「Garlic」というコードネームの新しい大規模言語モデルを開発中。
- **内部評価:** 最高研究責任者Mark Chenによれば、GarlicはGemini 3やClaude Opus 4.5を上回る性能を持つ。



GPT-5.2

(Dec 2025)

12月9日にリリースされるモデルそのものか？

GPT-5.2 or GPT-5.5

(Early 2026)

別の次世代モデルなのか？

GPT-5.2との関係: 不明確。Garlicが12月9日にリリースされるモデルか、別のモデルかは分かっていない。

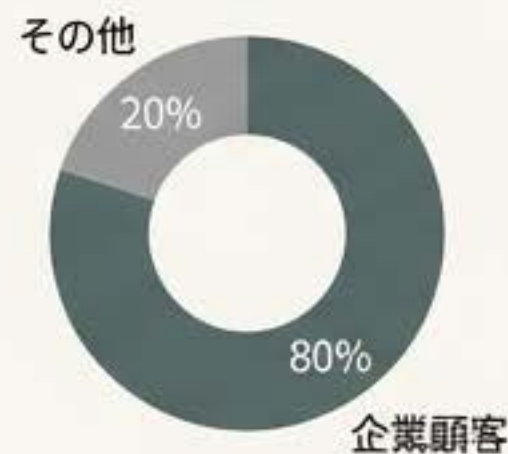
第三極の視点：Anthropicは「コードレッド不要」と静観

我々は少し特権的な立場にいる。ただ成長を続け、モデルを開発し続けられればいい。コードレッドを出す必要がないのです。

— Dario Amodei, Anthropic CEO
(DealBook Summit, 2025/12/4)

暗黙の批判

「一部のプレイヤーはYOLO（やるだけやってみよう）的にリスクを取りすぎている」と述べ、OpenAIの巨額投資戦略を牽制。



Anthropicのビジネスモデル

収益の約80%を企業顧客から得ており、消費者市場の激しい変動に左右されにくい。

静かなる実力者、Claude Opus 4.5

リリース日: 2025年11月24日

コーディング性能



77.2%

SWE-bench Verified

実世界のソフトウェアエンジニアリングタスクでトップクラスの性能を達成。

戦略的な価格設定

¥/\$

約1/3

コスト削減

入出力コストを従来の3分の1に削減。（入力: \$5/1M, 出力: \$25/1M）

高度なエージェント機能



30分

自律的コーディング

30分間の自律的コーディングセッションで一貫したパフォーマンスを発揮。

OpenAIを突き動かす、 桁外れの財務的プレッシャー

\$700,000

日々の運用コスト（約1億円）

\$1.4 Trillion

今後8年間のデータセンター投資計画（約210兆円）



\$10 Billion

2025年の短期収益目標

\$200 Billion

2030年までの黒字化ライン（内部予測）

結論: この財務状況は、OpenAIが「市場での優位性を一瞬たりとも失うことが許されない」
という、極めて攻撃的な成長戦略を取らざるを得ないことを示している。

情報の整理：確定事実 vs. 不確定要素

✓ 【信頼できる根拠 (Confirmed Facts)】

- Sam Altmanによる「コードレッド」宣言の存在。
- Gemini 3の急速なユーザー成長と高いベンチマーク性能。
- OpenAIが競合からの強い圧力に直面している状況。
- 信頼性の高い記者(Tom Warren)と複数メディアによる報道。

? 【不確定要素 (Uncertainties)】

- OpenAIからの公式確認が一切ない。
- GPT-5.2の具体的なリリース日程。
- 謎のモデル「Garlic」とGPT-5.2の正確な関係。
- 過去にもリリース日程が変更された前例がある。

評価: 12月9日のリリース説は「**信頼性の高い噂**」ではあるが「**確定情報ではない**」。

今後の展望：想定される4つのシナリオ

2025年12月9日

1. 予定通りGPT-5.2がリリースされる

Gemini 3への直接的な対抗策として、基本性能を向上させたモデルが登場。

2. GPT-5.1の改良版として小規模なアップデートが行われる

フルバージョンではなく、速度や信頼性を改善したマイナーアップデートに留まる。

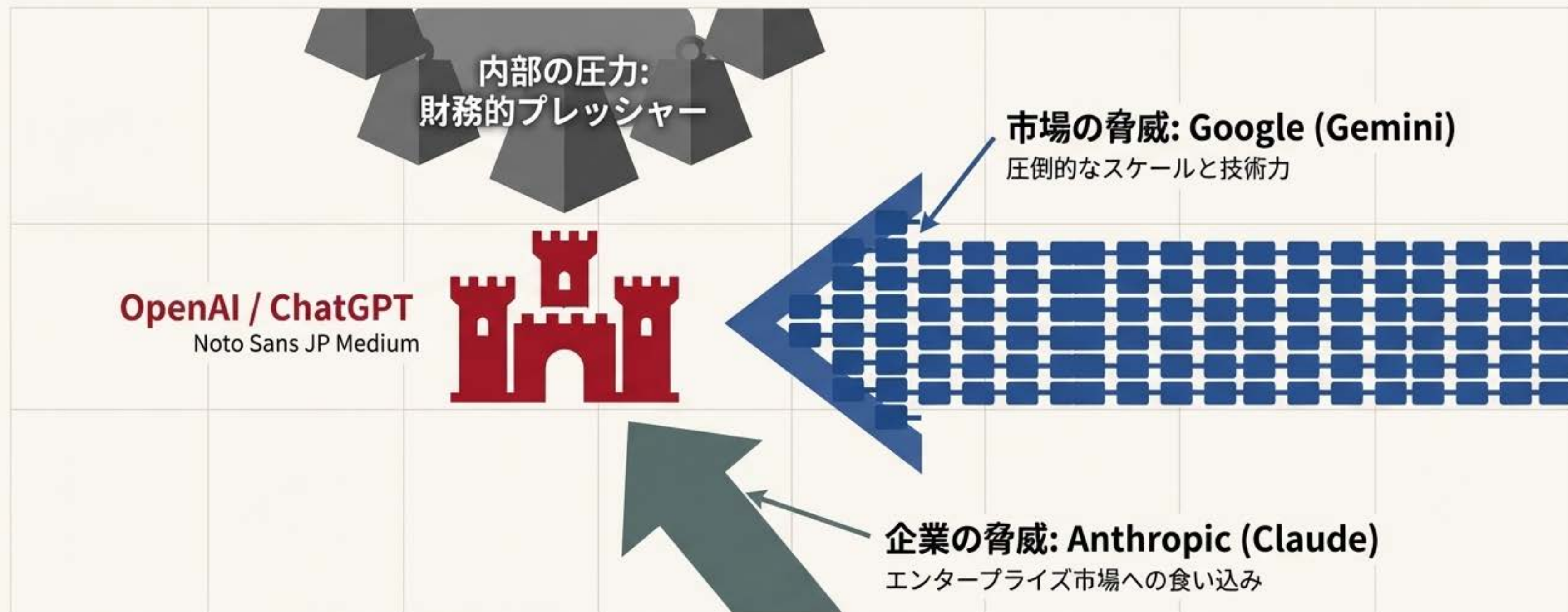
3. 別のモデルや機能が発表される

噂のGPT-5.2ではなく、画像生成v2や音声機能の改善など、別のサプライズが用意されている。

4. リリースが延期される

開発上の課題や戦略的判断により、発表が12月9日以降にずれ込む。

AI覇権の行方：二正面作戦を迫られるOpenAI



最終的な見解:

ChatGPTの市場支配は依然として強固だが、技術的優位性の維持には継続的なイノベーションが不可欠。GPT-5.2を巡る一連の動きは、OpenAIが守勢から攻勢に転じざるを得ない状況を示している。彼らの次の一手が、AI業界の新たな勢力図を決定づける。